

〔２〕 割り箸から世界が見える

岸和田市消費生活研究会

(発表者) 河原 一子 ・ 清原 和子 ・ 柴辻美智子

杉山キヨエ ・ 原田 博海 ・ 春崎百合子

はじめに

日本人の木の文化として開発され、間伐材や端材を利用していた割り箸の国内生産は 1989 年に 32% (115 億膳) まで減少しました。その後も自給率は減り続け 2005 年には 2% になっています。

かつて国内の生産量で十分だった割り箸は、ライフスタイルの変化で日本人の外出機会、急増とともに外食産業、弁当用などで多く使用されるようになり消費量も伸びてきました。大量の割り箸の必要性から安価な輸入品に端緒をつけたのはテイクアウト型の飲食店であるといわれています。

この割り箸が環境問題として 1984 年と 1990 年ごろ、二度にわたり「使用の是非」が問われる論争がありました。関心をもたれた消費者もいらっしやると思います。

岸和田市消費生活研究会では、2006 年度から使用済み割り箸の回収を始め、王子製紙や炭に加工している団体へ送りリサイクルしています。このような経緯で 2010 年度のテーマは「割り箸」に焦点をあてました。調査結果は、「割り箸」が単に国内だけでなく世界にまで波及している大きな問題であることを知っていただき、大切なことは何かを共に考えていただければ幸いです。

調査の概要

調査方法：留置法（会員が配布）

調査対象：会員および一般府民

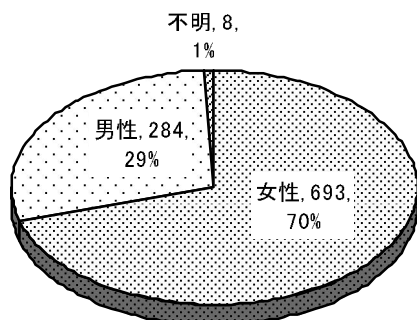
調査期間：2010 年 8 月 1 日～8 月 31 日

配布数：1000 枚 回収率：985 枚 (98.5%)

調査結果

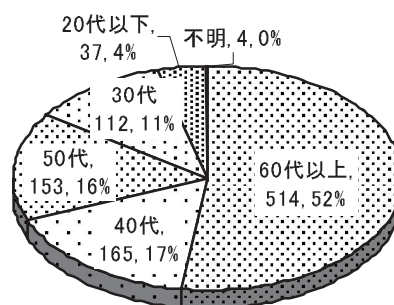
問１ あなた自身についておたずねします。

* 性別をお答えください。



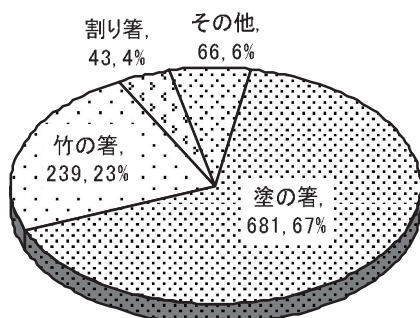
「女性」が 70%、「男性」が 29%、で「不明」が 1%となっています。

* 年齢をお答えください。



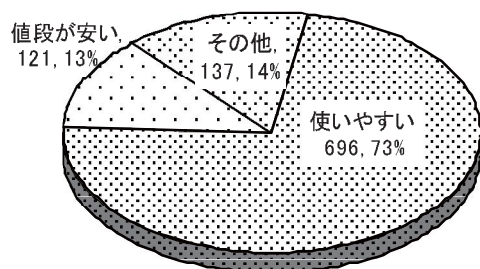
「60代以上」が最も多く 52%、次いで「40代」17%、「50代」16%、「30代」11%、「20代以下」4%となっています。

問2 普段、家庭ではどんな箸を使っていますか。 (n=1029)



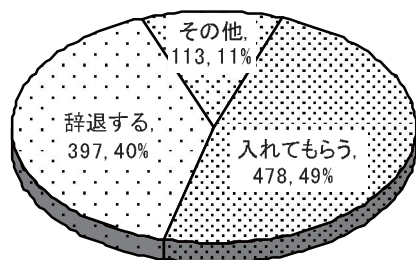
「塗の箸」が最も多く 67%、次いで「竹の箸」23%、「割り箸」4%で、「その他」6%は檜や黒檀、南天、樹脂、竹、プラスチック、食器洗いに対応の箸等となっています。

問3 問2で選択された各項目についてその理由をお書きください。 ①使いやすい ②値段が安い ③その他 (n=954)



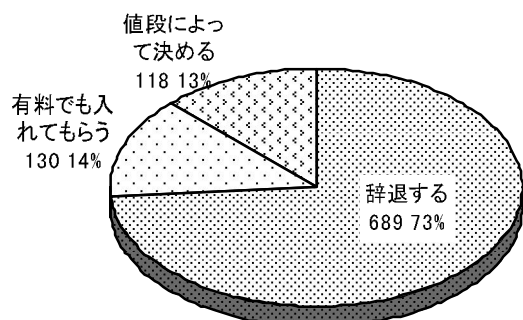
「使いやすい」が最も多く 73%、「値段が安い」は 13%、「その他」14%の内容は、繰り返し使用できる、安全、丈夫、衛生的となっています。

問4 コンビニなどで弁当を購入するとき「割り箸をお入れしますか」と聞かれることが多くなりました。入れてもらいますか。 (n=988)



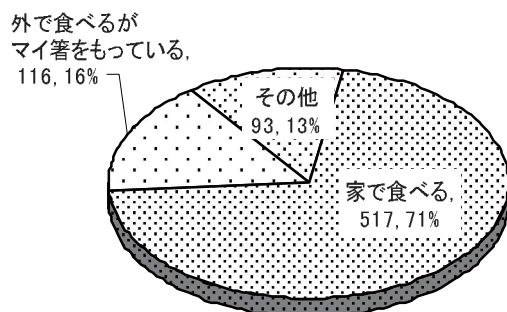
約半数の 49%が「入れてもらう」と回答、理由は「マイ箸を持ち歩かない」が最も多く、次いで「ためておき後日、来客用や調理用に使う」「箸以外にも使える」など、「辞退する」は 40%で理由は「自分の箸を使う」「中国製は漂白していて気持ちが悪い」「エコのため」となっています。「その他」11%の内容は未記入。

問5 問4の割り箸が有料だったらどうしますか。 (n=937)



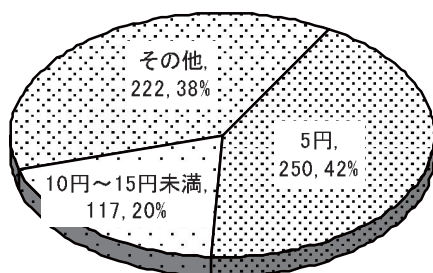
「辞退する」が 73%、「有料でも入れてもらう」が 14%、「値段によって決める」が 13%となっています。

問6 問5で「有料だったら辞退する」と回答された理由は何ですか。 (n=726)



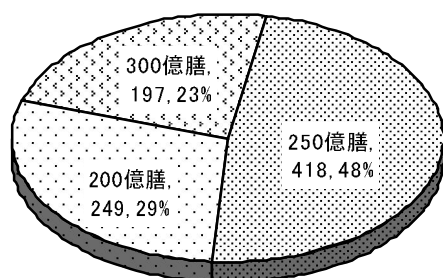
「家で食べる」が71%、「外で食べるがマイ箸を持っている」が16%となっています。「その他」13%は箸を使わないものにする（パンやおにぎり）などとなっています。

問7 問5で①「有料だったら辞退する」と回答された方はいくらから辞退しますか。 (n=589)



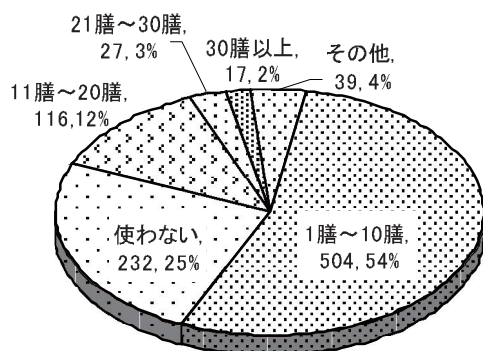
「5円」が42%、「10円～15円」が20%、「その他」38%の中には「金額に関係なくすべて（無料でも）辞退する」となっています。

問8 現在、日本人が1人1年間で消費する割り箸は約200膳といわれていますが、日本人が1年間で消費するのは次のうちどれでしょうか。 (n=864) ①200億膳 ②250億膳 ③300億膳



②が48%と最も多く、次いで①が29%、③23%の順になっています。文献の平均的な数値は②が多く2000年は245億膳と書かれているものがありました。
※林野庁林産課の統計（2004年）では、日本で1年間に消費される割り箸は248億膳です。

問9 あなたの家では1ヶ月に割り箸を何本使いますか。（平均） (n=935)

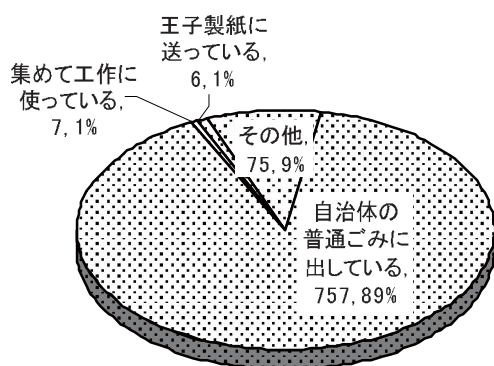


「1膳から10膳」が最も多く54%、「使わない」が25%、「11膳～20膳」が12%、「21～30膳」が3%、30膳以上が2%となっています。

問10 割り箸を使っている方にお尋ねします。主にどんなときに使われますか。 (n=664)

割り箸を使うと回答された664人中、「来客用」「麺類を食べるとき」は521人(78%)、「菜箸用」は56人(8%)、「アウトドアなど野外で」は38人(6%)、未記入49人(7%)となっています。

問11 使用後の割り箸はどうしていますか。 (n=845)



「自治体の普通ごみに出している」が89%、「集めて工作に使っている」「王子製紙に送っている」がともに1%で、「その他」9%は・掃除などに再利用した後捨てる・樹木の支柱・ナメクジなどの虫取り・風呂焚きや畑で・バーベキューの時・ためておき炭として使っている等となっています。

問12 日本では外食時に割り箸を使わず「マイ箸」を使う運動を進めている団体があります。韓国では自国の文化の保護、CO₂排出量抑制の目的で割り箸に多額の税金を課しているためほとんどの店では鉄箸を洗って繰り返し使っています。その箸の洗浄時の水質汚染の問題もあります。あなたはどのように思いますか。

回答を得られた419件について以下の類型により整理しました。

◇ マイ箸賛成派 (97件)

▶ マイ箸にして不要なごみを出さない。たとえ間伐材でも割り箸はもったいない。▶ 文化も大切だが鉄箸は水質汚染の問題もあるのでマイ箸運動はよい。外出先では割り箸使用は仕方ないと思うが、絶えず外食する人はマイ箸持参がいい。▶ マイ箸が環境問題に寄与するのであれば韓国のように罰金、税金を課すなどの国策が必要。個々の意識向上や団体の努力だけでは限界がある。▶ 森林伐採、水質汚染による環境破壊を考えると「マイ箸運動」の啓発を進めていくのがよい。▶ マイ箸持参運動はよいと思う。ごみ減量のために洗い箸の基準を厳しく。

◇ 洗い箸賛成派 (34件)

▶ 割り箸を使わない店が増えている。水質のことは問題にならないと思う。食器も洗うから。▶ 使い捨てよりいい。▶ 韓国の鉄箸の洗浄と食器の洗浄は同じと思う。箸で水質汚染を感じない。▶ 繰り返し使うことは大切である。その意味で処理は最低限にとどめるべきである。▶ 箸の洗浄が水質汚染の問題になるようだが水質に影響が出ないような洗剤が開発されればよい。▶ 箸だけを洗浄するわけではなく食器を洗うときも洗浄するので水質汚染まで言うのはおかしい。▶ マイ箸であってもどこかで洗浄しなければならないので、水質汚染は疑問であるが、ナイフやフォークと同様に繰り返し使用すればよいと思う。▶ 汚水はどの家庭でも出るので下水処理に力を入れるべき、箸についても下水処理がきちんとできるなら洗浄して繰り返し使うほうが望ましい。

◇ 割り箸賛成派 (112 件)

▶ 割り箸は使いやすく清潔。 ▶ 間伐材や廃材を使うので環境保護のため必要と考える。 ▶ 間伐材利用の割り箸の消費が進めば林業も役だち山の保全につながるので中国からの輸入はストップすべきである ▶ 間伐材などの有効利用であれば割り箸の使用はいい。1膳につき5円でも税金を取り植樹事業に使えばよい。 ▶ 使用済み割り箸の再利用を考えればよい ▶ 外食産業では必要 ▶ 洗剤の使いすぎはよくない。日本で製造される割り箸は間伐材を利用している。輸入の割り箸をやめて日本製を使うべきである。 ▶ 洗浄が不十分なときもあるので外食時は割り箸がよい。 ▶ 材料の間伐材は適当に伐らないと周りの木によくないと聞いている。一概に悪いとは言えない。 ▶ 箸を作るために伐採しているわけではなく、柱材などから出た端材で作っていると思うのでCO₂抑制の負担になっているとは思はない。 ▶ 割り箸は自然界でCO₂を吸収していた植物であるので、焼却処分として発生するCO₂は元に戻ったと理解している。再利用の際の洗剤や水道使用量が高くなる。再利用する場合、衛生面に注意をはらう必要がある。 ▶ 森林の健全な状態を保つために割り箸が必要なら輸入に対抗できる方法を考えるべきだと思う。日本の間伐材から作る割り箸はよい。 ▶ 割り箸は間伐材や端材を利用して作られるのでさほど環境に悪いとは思はない。回収して輸送するコスト、CO₂、水質汚染の問題のほうが大きい。

◇ 洗い箸は衛生面で心配 (37 件)

▶ 洗剤の落ち方も含めどこまで洗浄されているか心配になる。 ▶ 洗剤を使うのは箸だけではないが他人の使用した箸は使いたくない。 ▶ きちんと洗浄しているものばかりではない。食中毒やC型肝炎の原因にもなりかねない。 ▶ 環境にはよいと思うが洗って繰り返し使うのは衛生的にどうかと思う。 ▶ 洗い箸は繰り返し使う意味ではよいが洗剤に問題がある。きれいに洗浄されていないと非衛生的である。

◇ 水質汚染・洗剤の問題 (24 件)

▶ マイ箸や洗い箸使用は環境のためにはよいと思うので、水質汚染にならない洗剤を使えばよい。 ▶ 洗剤や洗浄方法の改良。 ▶ 牛乳もビンがよいのかパックがよいのか議論がある。再利用の場合の洗剤の使用(排水)方法が気になる。 ▶ 最近はリサイクル箸になっているところもある。ごみはできなくてよいと思うが洗浄するため下水が汚れるという問題も出てきた。洗剤の質を上げるなど少ない量できれいにでき、すすぎも少量の水できれいになるなど考えていかないといけない。

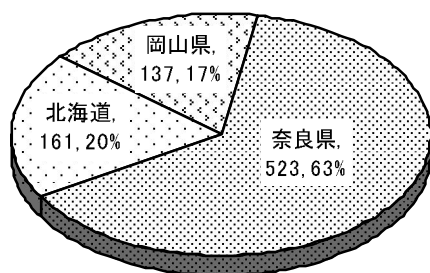
◇ その他・どちらともいえない (115 件)

▶ 何れも一長一短ありケースバイケースで対応すればいい。 ▶ 廃材利用のよさや洗剤の量のことを考えるとどちらがよいのか難しい。 ▶ どちらが地球環境に負荷が大きいのかよくわからない。環境保全は大切。自国の文化も大切。どちらを選択するかは意外に簡単なのかもしれない。世界レベルで考え箸がもたらすCO₂排出などの本当の現状を知り対応すべきと思われる。 ▶ 安価な割り箸をどんどん使って捨てるより洗い箸はいいかもしれない。しかし、洗浄も仕方がどうなっているのか不安であり衛生面を考える。 ▶ どちらの場合が環境汚染につながるのかを具体的な数値で比べて政策を決めればよい。 ▶ 生活習慣の違いや品質管理の

程度、精度の違いがありその人の考えにより行動すればよい。 ▶ 両面あり難しい。森を守るため伐採することも必要だし、それを利用し箸を作ることも一方ではある。 ▶ 環境負荷を調査しないとわからない。 ▶ いろんな考え方があるので自分たちでできるところからやっていく、ということでもいいのではないかな。 ▶ 世界レベルで考え箸がもたらすCO₂排出などの本当の現状を知り対応すべきと思われる。

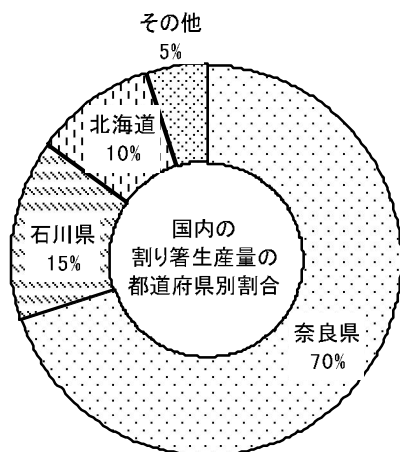
問 13 下記は国産割り箸の主な産地です。生産量が多いのはどの地方ですか。 (n=821)

①北海道 ②奈良県 ③岡山県



「奈良県」63%、「北海道」20%、「岡山県」17%となっています。

※ かつては北海道が最も多かったのですが2006年は下記グラフの結果になっています。

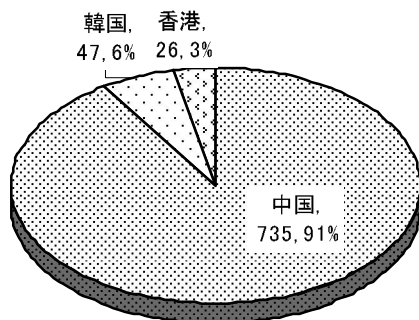


左記は、2006年現在の値で、生産量は変化しており、以前は、生産量が最も多かったのは北海道でした。

データ出所：日本林業調査会「林政ニュース」

問 14 国内で消費されている割り箸の約97~98%は輸入に頼っています。材料の過半数はシナ、カバ、ポプラ、アスペンなどです。最も多い輸入国はどこですか。 (n=808)

①中国 ②韓国 ③香港



「中国」91%、「韓国」6%、「香港」3%となっています。

※1994年までは韓国や香港からも輸入していましたが、1998年の調査では、中国96%、インドネシア3%、その他1%となっています。
 (『日本貿易月報』大蔵省)

問 15 割り箸が環境に悪いという主張と、悪くないという主張が 20 年以上対立してきました。

あなたはどのように思いますか。

回答を得られた 443 件について以下の類型により整理しました。

◇ 環境によい (198 件)

▶ 日本の割り箸は間伐材や端材を利用しているので山林保護や林業を守る上で大いに使うべきである。中国の割り箸は皆伐方式で伐採して作っているので使いたくない。漂白の問題もある。使用後の割り箸の再利用ができれば最高である。 ▶ 割り箸のために木を育てているわけではなく建築用材として使えない部分を使っている。 ▶ 日本産をつかえばわるくない。 ▶ 割り箸は使い捨てのイメージがあるが、家庭では使った後も再利用し使い切っている。 ▶ 衛生的であり、間伐材や廃材などの資源の再利用で里山の保全、林業の持続性や山間部の産業に役立っていると聞く。 ▶ 高級な箸は何度も使い大切に、最後はごみに捨てることなく土に返している。 ▶ 割り箸は間伐材で作るので森林破壊に結びつかないし、燃やしても木なので特に問題にならない。日本の文化だし、江戸時代より衛生的にできている。 ▶ 輸入の割り箸でなく国産なら大いに利用して日本の林業の活性化につながればいい。

◇ 環境に悪い (98 件)

▶ 森林破壊につながるので問題かなと思う。 ▶ 使い捨てのためごみが増える。 ▶ 外食産業、コンビニ、スーパーなどで普及しすぎて無駄に使いすぎている。その分ごみも増える。必要最小限の使用を意識していくべき。 ▶ 木を使い捨てている以上よいこととはいえない。 ▶ 割り箸はやめたほうがよい。使うならその店で回収するように自治体などで検討すべき。 ▶ 地球温暖化の影響を考えると木材の伐採はよくない。

◇ その他・どちらともいえない (147 件)

▶ 科学的なデータに基づき結論を出してほしい。 ▶ 環境問題を考えるのであれば割り箸だけに限定せずに考えるべきだと思う。よい面も悪い面もあるので今後も対立し続けると思う。 ▶ 問 12 で植物はCO₂を吸収しているので焼却によるCO₂発生は元に戻ったという説があるが、山火事などのCO₂発生はどう考えるのか。 ▶ 安価なことを理由に利用されている輸入品は森林破壊を伴い悪い。一方、間伐材などとともに資源の有効活用である国内産は悪くない。割り箸は日本の文化であり、これを否定することには反対。上記のように海外の環境破壊、国内の資源活用産業の衰退を招いている輸入措置は大反対。高い関税をかけるなどしてはどうか。 ▶ 割り箸で生計を立てている人もいると思うが、王子製紙へ送るということを知らなかったので使わない分もごみに出していた。勉強になった。 ▶ 消費者だけの問題でなく広く啓発し、協議してほしい。 ▶ 割り箸は従来間伐材などを利用して作られていると認識しているので、森林保護のためよしと思っていたが、ほとんどが輸入品とのことで認識を改めて「マイ箸」利用を考えたい。 ▶ 安いコストの割り箸に日本中が侵された。森林を守るきちんとした対応策を国が決めるべきだと思う。 ▶ 日本の割り箸は間伐材を利用しているので悪くない。悪いのは中国産で自国の山を皆伐方式で伐採し箸に加工していることである。伐採後も植林をしないで農地に転用している。しかも輸出する時、防カビ剤、漂白剤で処理している。安いだけの理由で輸入しているが輸入業者や、外食産業はもっと考えるべきである。 ▶ 廃材や間伐材の利用もいいが成長の早い竹の箸を使えばいい。

問 16 その他自由にお書きください。 (80 件)

▶ 普段何気なく使っている割り箸が、どのように環境負荷があり、どうすることでよくなるのか情報発信してほしい。 ▶ 自分ひとりと思う気持ちがよくも悪くも日本を、世界を変えることにつながると思った。 ▶ 輸入はやめるべきである。 ▶ 環境によい、悪いがどういうことかしっかり勉強しなければ思った。 ▶ 割り箸によらず便利さを追求しすぎて使い捨てが普通になっていること自体が問題。便利さを捨てることができるのか。 ▶ なんでもそうだが理想的なことをいくら述べても実行できなくては空論になってしまう。山林はほとんど個人所有になっていた。儲けも損失も個人的に処理されてしまうのは大問題である。国が助成金をだし、森林育成なり、人材育成など多くの視点で木を育て木材を生かすことを考えて取り組んでほしい。 ▶ 以前、笹からできた箸を使ったことがある。使いやすく重宝している。 ▶ 割り箸がよいか悪いかは別にして、付き添いがない入院のときは助かる。 ▶ 環境保全のためには山林行政で国有林の伐採をやめ、全国の山を原生林に戻して酸性雨対策に取り組み山野を守ることが大切。登山者が多いと山は荒れる。山を大切にしたい割り箸は国産を使っていきたい。 ▶ 安いことだけを理由に輸入している割り箸は森林破壊をしている一方、間伐材などで資源を有効利用している国産は大いに活用すべきである。また、割り箸は日本の文化として長く使われてきたものである。海外の環境破壊をしてまで輸入品に頼ることはない。 ▶ 安価な中国産割り箸の環境面での問題と中国の森林伐採の方法、意識のない伐採後の農地への転用、中国の山林が壊滅状態になってなお、ロシアの森林を伐採する。日本人が使う割り箸が他国の森林を食いつぶすとの批判も受けている。

※記述式は書ききれないほど多くの方から回答をいただきました。紙面の都合上、最も多かったもの、文章表現は違っているが同様の内容のものなどを集約し列記しています。

アンケートで指摘のあった問題点とその対策の現状

・中国の森林伐採形態と日本の輸入

中国の森林伐採は一斉に伐採する皆伐方式に問題があり、伐採後は植林をせず農地に転用しているためこのままでは森林は減少の一途をたどります。また、木材の継続的供給はできなくなり、伐採により公益的機能（・洪水を防ぎ渇水を緩和する・土砂の流出を防ぐ・水を浄化する、・地球温暖化を防ぐ・安らぎや憩いの空間を作る）が失われています。

※中国政府は大洪水が起こった後、違法な森林伐採に対する規制を強化したと伝えられています。このような法規制を背景に植林は続けられていて森林面積は減少していないと主張しています。伐採規制と植林の義務化を実施していますがほとんど守られていません。1998 年度から中国での植林は、日本の大手割り箸輸入メーカーや飲食店チェーンなど数社が共同で、NPO 法人「日中環境保全友好植林実践会」という組織をつくり自主的に植林活動を始めています。

・森林率 65%で大量の木材が蓄積している国が、森林率 17%の国から輸入している

日本の国土の森林率は 65%（中国は 17%）で国内には大量の木材が蓄積し割り箸用の木材は、国内で供給できる状況にありながら中国から新たな木を伐採して輸入しています。木材資源を有効利用していた時代のように間伐材が山に放置されている木材を活用することが必要

ですが、林業の衰退、高齢化、山村の過疎化などで困難だといわれています。森林は増加する一方で手入れの必要な人工林を適切に管理することができなく山林の荒廃を招いています。

・国産間伐材を利用した割り箸の促進や森林保護に向けて

国産の間伐材で作られる割り箸と輸入される割り箸との間で生じる価格差が原因で中国から大量輸入し消費される一方、日本の森林では間伐材の利用が進まず問題になっています。価格差を箸袋に入れる広告代で補おうと「アドバシ」（アドバタイズメント＝広告）が提案され実施されています。また、国産の建築端材や間伐材を利用した国内産割り箸を普及させるため、山村企業や国で取り組みが始まり、国産の割り箸を使う団体やコンビニなどが増えてきました。

※デニーズは森林資源の有効活用を考え 1997 年から年間約 4000 万膳使う割り箸はすべて吉野杉の建築端材を利用しています。

※ナチュラルローソンは 2004 年から、ミニストップでは 2006 年からデニーズと同様の取り組みを始めています。

※コンビニの「ミニストップ」は 2006 年から東京や千葉などの店舗で奈良県産「吉野ヒノキ材」の割り箸を 1 膳 5 円で売り出し「あなたの 5 円で一緒に森を育てませんか」と掲示して購入を勧めています。

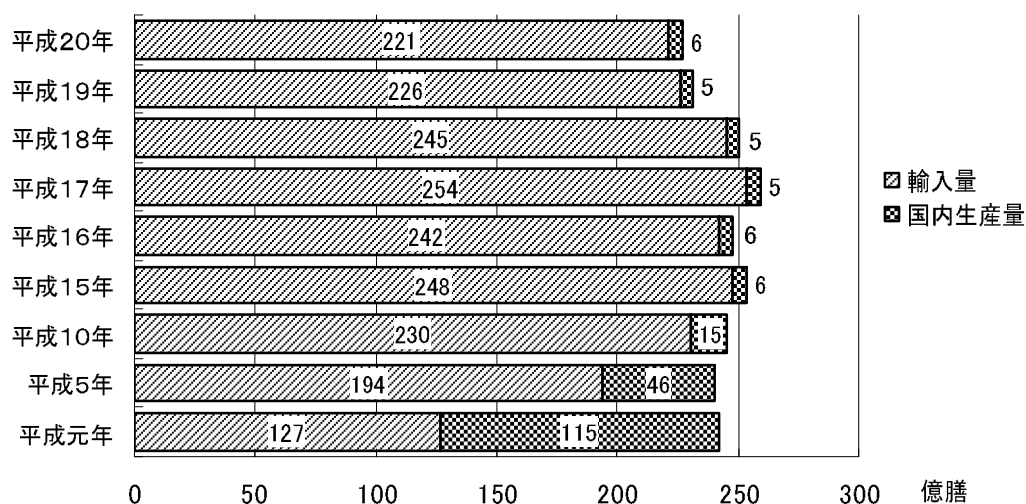
※太陽生命保険では 2006 年 9 月から社内の社会貢献サークルが、社員向けに奈良県産材の割り箸を販売し、昼食弁当に利用できるよう 1 セット 20 膳を 150 円で販売。

※1998 年から徳島県や埼玉県産材の割り箸販売に取り組んでいる NPO 法人「樹恩ネットワーク」は 2006 年秋、新たに群馬県産の割り箸を販売しました。販売先は、全国の大学生協食堂です。2005 年には 860 万膳が売れたそうです。

※北海道洞爺湖サミット（2008 年 7 月）では、来日した参加国の政府関係者が使う割り箸に国産材スギの間伐材が使われました。

（間伐材の積極的利用はひいては山村の活性化、森林整備の促進、地球温暖化防止につながります）

割り箸の輸入量と国内生産量



データ出所：日本林業調査会「林政ニュース」 林野庁木材産業課、財務省「貿易統計」

・消費段階で割り箸の使用量を減らす

日本で1年間に消費される割り箸のうち家庭用が20%、弁当用15%(うちコンビニ5%)、飲食店用が65%ではないかと推測されています。

※大手のコンビニエンス・ストアのセブン・イレブンは1999年5月から割り箸と弁当を一緒にせずレジで必要な人にだけ渡す方式に改めています。

※弁当屋のチェーン「そうざいや」では、割り箸の要、不要をたずね不要な人には「そうざいや・地球カード」を渡し、このカードを20枚集めると100円分の惣菜と交換できるシステムを作りました。

おわりに

「中国産割り箸、対日輸出2008年にも停止」と報道されたのは2006年4月のことでした。記憶されている方も多いと思いますが中国政府は国内の森林保護の名目で、今後段階的に日本への輸出を減らすとのことで、2005年12月に日本向け価格を30%値上げし、国内に対しては割り箸に税金をかけました。飲食店などではプラスチック箸に切り替えるところもあり、スーパーやコンビニは中国以外の輸入先をロシアやベトナムに向けました。この報道は、問題の多い輸入箸に頼らず国産に目を向ける機会として捉え国内林業を育てるためによいとの意見があります。

林野庁の報告では過去40年間、国内の森林全体はほとんど変わっておらず、むしろ2002年現在の森林蓄積は40億 m^3 で、人工林を中心に毎年約7千万 m^3 増加しているとのことです。今こそ、林業の活性化に向けて日本の森林を利用する時期に来ているのではないのでしょうか。そして、私たちの社会と森林との持続可能な関係の構築を目指すことが重要といわれています。

アンケート結果を見て思ったことは、問題は地球規模、対応策は地域的・日常的なものになっているということでした。そして、日本や中国の割り箸の状況だけを見ていただだけでは、「中国で森林を伐採している一方、日本では間伐材が捨てられている」という問題を見逃していたかもしれないのです。海のエコラベル「MSC（海洋管理協会）」（適切な資源管理のための基準に達していると認めた魚に対しラベルをつけて売ること認める制度）のように、適切に管理された森林からとれた木材の製品につける認証ラベル制度が、割り箸にも必要かと思います。ただし、せっかく認証ラベルが貼られても消費者がラベルつき商品を選択しなければ意味はありませんが・・・。

今回の調査で「割り箸は使ったほうがいい」「使わないほうがいい」の立場を含め多くの方からご意見をいただきました。しかし、二者択一的な観点は永遠に平行線をたどるだけです。このような見地から離れて、割り箸を含めた大量消費と使い捨ての日常生活を見直すことが必要だと考えます。一人ひとりが身近なところから改善策を考え実践すべきではないのでしょうか。

参考文献

日本林業調査会「林政ニュース」

林野庁木材産業課、財務省「貿易統計」

『日本貿易月報』大蔵省

『割り箸で森が救えるか?』1991 銀河書房

『割り箸から見た環境問題』環境三四郎

『割り箸が地域と地球を救う』創森社

『林業白書』林野庁 等